

黒毛和種牛肥育における 大麦代替飼料としての飼料用米の活用

国内で生産量が伸び続けている飼料用米は、トウモロコシの代替飼料として注目されていますが、玄米にはβ-カロテンがほとんど含まれないために、黒毛和種牛の肥育においては、血中ビタミン A 濃度が過度に低下することが懸念されます。一方、大麦にはβ-カロテンが含まれず、第一胃内での消失パラメーターが玄米に近いため、玄米で大麦を代替できる可能性があります。そこで、滋賀県畜産技術振興センターでは、黒毛和種牛肥育において、大麦代替として玄米を給与した場合の産肉性に与える影響について明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 黒毛和種去勢牛 8 頭を用い、大麦の全量代替として前期は 18%、中後期は 30%の破碎玄米を含む飼料を給与する大麦代替区と対照区を設け、前期 16 週、中後期 70 週の約 29 ヶ月齢まで飼養試験を行いました。飼料の TDN と CP は対照区と試験区がほぼ同等になるようにトウモロコシとフスマで調整し、約 21 ヶ月齢以降に適宜、ビタミン A 剤を注射しました。
2. 去勢牛の増体は玄米の給与によって影響されませんでした。濃厚飼料摂取量や推定 TDN 摂取量は大麦代替区が多くなりました。
3. 血中ビタミン A 濃度は、17 ヶ月齢で大麦代替区が有意に低下しましたが、その他の時期では有意な差がなく、発育に影響しませんでした。これは、TDN と CP を調整するために、トウモロコシの配合量を減らし、飼料中のβ-カロテン含量が減少したためと考えられます。
4. 枝肉成績では、大麦代替区の枝肉重量とバラの厚さが有意に大きくなりましたが、枝肉格付は対照区と差がありませんでした。



写真1 粉碎玄米

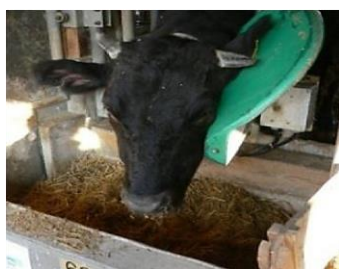


写真2 給与試験



写真3 枝肉断面

☆ 活用面での留意点

玄米の多給により、トウモロコシなどのβ-カロテン含量が高い飼料原料を減量する場合には、血中ビタミン A 濃度への影響に留意し飼料配合を設計して下さい。詳しくは、滋賀県畜産技術振興センター近江牛生産技術担当 北川貴志(Tel 0748-52-1221)まで問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)